

南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2023年5月22日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要点とリンゴ及び生食用ブドウの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

レポートの要点

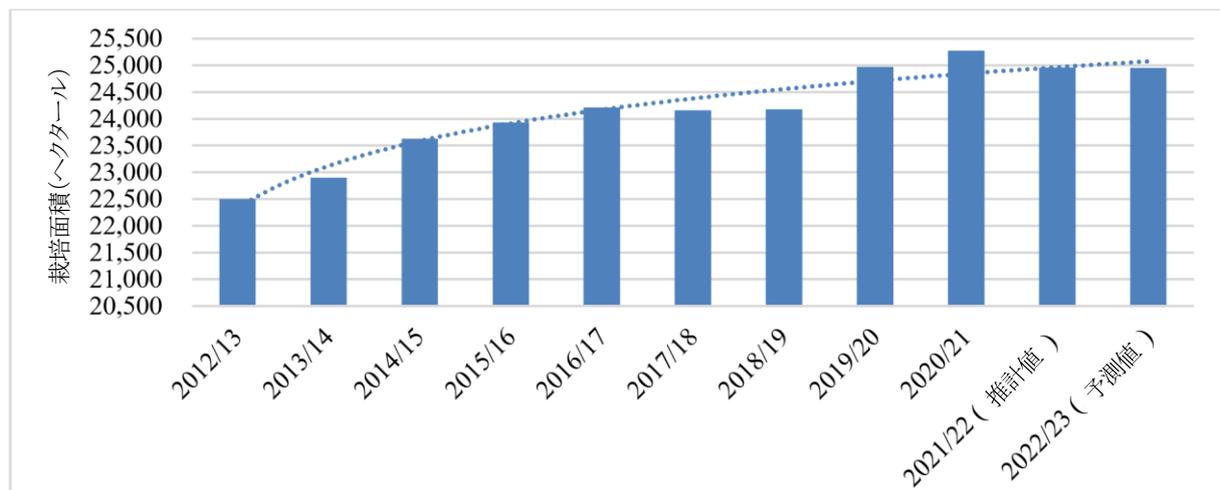
2022/23販売年度(以下「年度」)のリンゴ、洋ナシ、生食用ブドウの生産量は、3品目とも主に栽培面積の停滞と、昨年の記録的な豊作の後で通常の収量に戻ることから、わずかに減少すると推定される。リンゴと洋ナシの産地では2022年11月に雹を伴う嵐の被害を受け、また北ケープ州では2023年1月の熱波が生食用ブドウの減収につながった。南アフリカは落葉果実を自給しており、ニッチ市場を満たすため、または供給が限られるオフシーズンの需要を満たすために少量のみを輸入している。輸出可能な供給量の減少と港へのアクセスの問題により、2022/23年度にはリンゴ、洋ナシ、生食用ブドウの輸出が減少すると予測される。

<リンゴ(生鮮)>

栽培面積

リンゴの栽培面積は過去10年間で着実に拡大しており、平均成長率は年1%を超えている(図1参照)。この前向きな傾向は、比較的高い収入と輸出市場の収益性の改善に基づく落葉果実セクターへの継続的な投資によって推進されてきた。さらに、改良品種の導入や防雹ネットの設置への投資等の良い農業慣行によって収量が増加した。しかし、この上ない生産条件の年にもかかわらず、南アフリカの2022/23年度のリンゴの栽培面積は2万4,950ヘクタール、果樹本数は約3,600万本で横ばいと推定されており、新植はごくわずかである。農業生産資材費の上昇、包装資材と保管コストの上昇、高い輸送費、さらに市場の低迷により、リンゴの収益性が低下し、栽培の拡大への継続的な投資を制約している。国内の港で起こっている出荷の遅延は、輸出市場での果実の品質に悪影響を及ぼし、最終的には生産者の収益を低下させている。業界は統合整理の段階にあるようで、生産者は収量の増加、信頼できる電力と水源、及び高い投入コストを相殺するための垂直統合に投資を集中させている。

図1 南アフリカのリンゴの栽培面積と傾向線



出典: Hortgro

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図2参照)。小さいながらも成長している産地は、主にフリーステート州、ムプマランガ州及びリンポポ州を中心に北部に形成されている。南アフリカのリンゴの収穫は通常1月末に始まり6月まで続き、収穫の最盛期は2月から4月の間にある。CA貯蔵庫の利用により、一年中国内市場と国際市場の両方に産品を提供

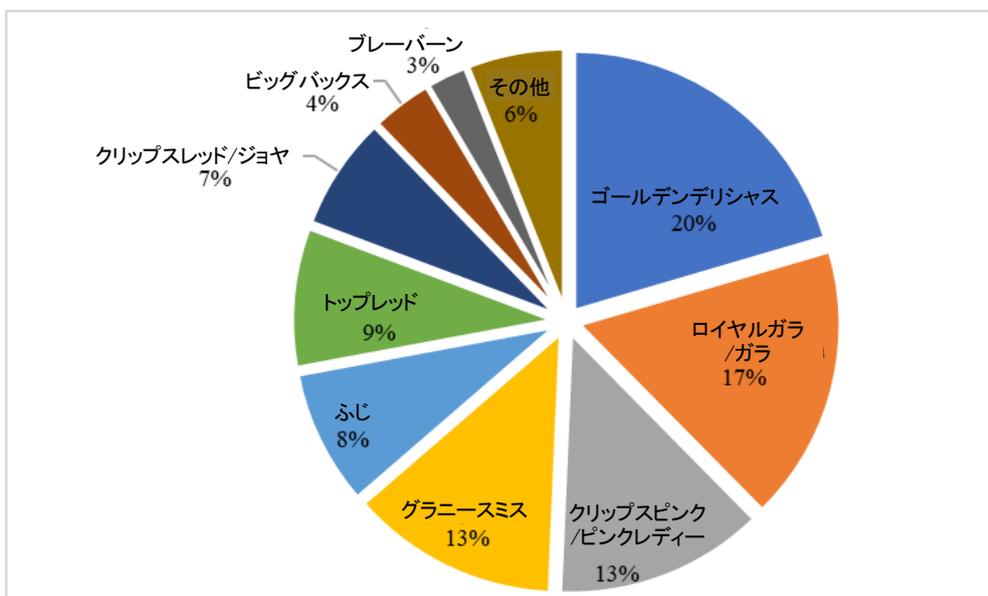
することができる。クラス1の果実は通常、CA貯蔵庫で約9か月間保管され、その後、短期間(3か月)通常の大気(RA)の貯蔵庫に置かれる。当事務所の情報提供者らによると、冷蔵貯蔵施設の需要が増加しており、拡大計画が進行中である。

図2 南アフリカの落葉果樹産地の地図



出典: Hortgro

図3 栽培されているリンゴ品種(面積ベース)



出典: Hortgro Tree Census, 2021

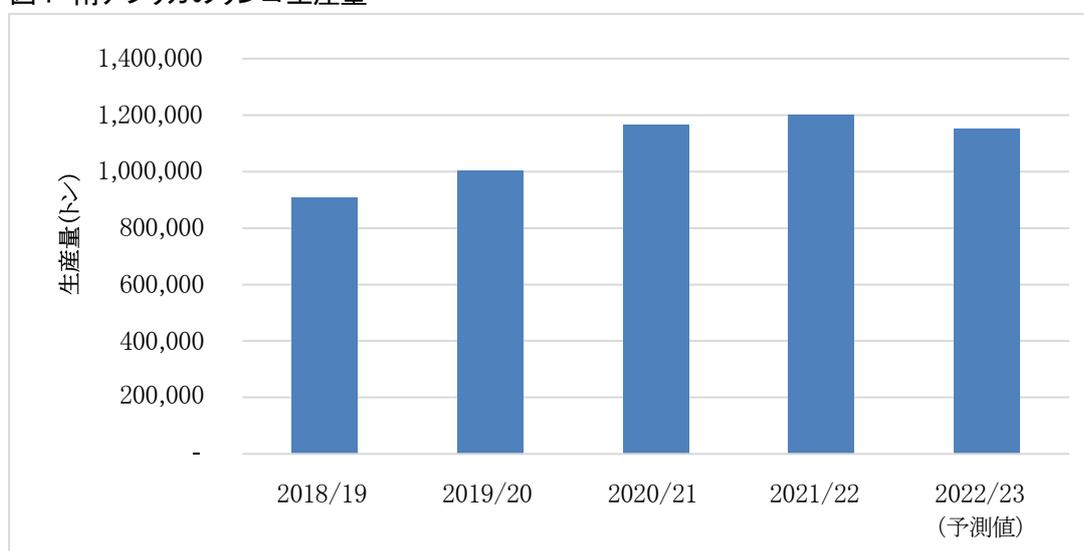
南アフリカでは6つの品種が栽培面積の80%以上とリンゴ生産の大部分を占めている。選択される品種は、主に消費者の好みと南アフリカの輸出市場の需要によって決定される。しかし、最近5年間の植栽は、収量を増やしたいという生産者の願望に従って進められてきた。

生産

当事務所は、2022/23年度の南アフリカのリンゴ生産量は、4%減の115万トンと予測する(図4参照)。この予測は、栽培面積の停滞と、2021/22年度の記録的な豊作の後で通常の収量に戻ることに基づいている。2022年11月には西ケープ州の一部の地域で霜を伴う嵐により作物が被害を受けた。この地域の生産者は、加工用に仕向けたリンゴの割合が例年の平均20~25%から2022/23年度には55~60%に増加したと報告した。当事務所の情報提供者らは、通常は生鮮消費用に出荷される約10万トンのリンゴが、2022/23年度には加工用に仕向けられたことを示唆した。その結果、多くの果汁工場はシーズンの処理能力の上限に達し、提携している生産者以外には扉を閉ざしている。品質の低い果実の出荷先が明らかでないため、当事務所は2022/23年度には収穫されない面積がわずかに増加し、出荷量が減少すると予想する。

2021/22年度には、南アフリカは120万トンと過去最多のリンゴを出荷した。2021年の冬の間の好ましい降雨と適切な低温時間は、十分な灌漑用水と果実の良好な生育を生産者に保証した。シーズンを通して良好な気象条件が続き、豊作と優れた果実の品質を確実にした。さらに若い果樹園が成園化し、出荷量の増加に貢献した。

図4 南アフリカのリンゴ生産量



出典: Hortgro 及び当事務所推計

輸出

当事務所は、主要産地における降霜による輸出品質のリンゴの出荷量の減少に伴い、2022/23年度の輸出量予測を53万5千トンに下方修正した。これは、2021/22年度の62万5,103トンから14%の減少となる。2021/22年度には記録的な豊作に伴い、リンゴの輸出量は6%増の62万5,103トンとなった。もし、輸送コストの上昇、国内の港湾の問題、通常の貿易パターンに対するロシアとウクライナの紛争の影響、及び英国におけるインフレ圧力といった問題が無ければ、2021/22年度の南アフリカのリンゴ輸出量の増加率はさらに大きくなっていった可能性がある。

アフリカ諸国への輸出は主に強い需要(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデンデリシャスの各品種)、これらの市場での競争の少なさ、及び最適とは言えない取り扱いに耐えるリンゴの性質のおかげで伸びている。ただし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の問題によって制約されている。南アフリカは欧州連合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場への免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカと欧州の市場は従来から堅調だが、成長は主に東方諸国への輸出の増加に牽引されると予想される。南アフリカからインドへのリンゴの輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出における輸送中の低温処理を承認したのを受けて、2022年に約67%増加した。競合国への関税引き上げによって南アフリカの輸出業者が機会を掴んだため、インドへの輸出は2022/23年度にさらに増加すると予想される。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出

輸出先	単位	2020/21	2021/22	2021/22		変化率(%)
				2022/23 1月～3月		
世界	トン	589,186	625,103	100,406	116,656	16%
英国	トン	89,598	77,948	1,450	1,105	-24%
ナイジェリア	トン	43,790	56,937	13,235	10,191	-23%
バングラデシュ	トン	37,496	38,008	13,325	18,978	42%
マレーシア	トン	36,210	37,413	5,307	6,458	22%
アラブ首長国連邦	トン	27,486	34,791	9,336	12,980	39%
ロシア	トン	31,711	26,463	492	863	75%
ベトナム	トン	16,878	23,783	1,453	3,174	118%
セネガル	トン	22,049	22,772	4,332	3,756	-13%
オランダ	トン	24,086	21,786	283	341	20%
ケニア	トン	18,999	17,558	2,359	3,008	28%
インド	トン	10,446	17,470	3,703	6,754	82%
ジンバブエ	トン	12,969	16,095	2,893	2,440	-16%
ザンビア	トン	12,485	15,508	2,876	2,730	-5%
ボツワナ	トン	14,070	14,172	3,524	3,624	3%
中国	トン	9,028	13,223	2,840	3,959	39%
ガーナ	トン	14,856	12,667	3,514	3,021	-14%
ドイツ	トン	9,396	11,987	71	123	73%
カメルーン	トン	11,146	10,784	1,906	2,186	15%
ナミビア	トン	8,995	10,678	2,275	2,618	15%
その他	トン	137,494	145,060	25,233	28,346	12%

出典: Trade Data Monitor

表3 生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮) 市場年度	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～12月		2022年1月～12月		2023年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積	25,272	25,272	24,956	24,956	24,950	24,950
収穫面積	22,580	22,580	22,850	22,850	22,800	22,300
結果樹本数	32,540	32,540	33,637	33,637	33,560	33,700
未結果樹本数	3,934	3,934	3,100	3,100	3,470	2,700
果樹総本数	36,474	36,474	36,737	36,737	37,030	36,400
商業的生産量	1,164,105	1,164,105	1,170,000	1,201,100	1,100,000	1,150,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	1,164,105	1,164,105	1,170,000	1,201,100	1,100,000	1,150,000
輸入量	200	173	200	25	200	25
総供給量	1,164,305	1,164,278	1,170,200	1,201,125	1,100,200	1,150,025
国内消費量	575,105	575,092	545,200	576,022	540,200	615,025
輸出货量	589,200	589,186	625,000	625,103	560,000	535,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,164,305	1,164,278	1,170,200	1,201,125	1,100,200	1,150,025

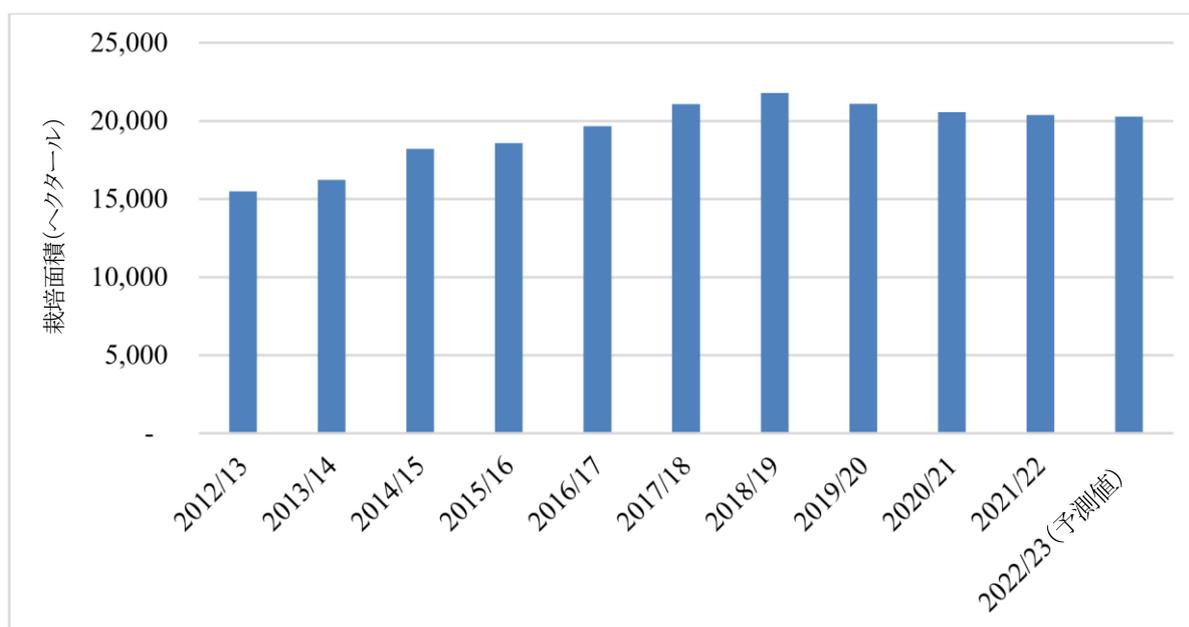
単位: ヘクタール、千本、トン

<生食用ブドウ(生鮮)>

栽培面積

生食用ブドウは南アフリカで生産される2番目に多い落葉果実であり、落葉果樹栽培総面積のほぼ30%を占めている。当事務所は、南アフリカの生食用ブドウの栽培面積は、2021/22年度の2万379ヘクタールに対して2022/23年度には2万270ヘクタールで、比較的安定していると推定する。生食用ブドウの栽培面積は、主に輸出収入の増加に牽引されて、2012年から2017年にかけて急激に増加した後(図9参照)は、約2万ヘクタールで停滞している。現在の農業生産資材費の高騰、非効率的な港湾運営、道路網の劣化、他の南半球諸国との競争の激化、及び電力供給の頻繁な中断は、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益性を低下させ、この産業への新規の投資を制約している。生産者らは、2021/22年度に直接費用全体の45%を占める販売と包装材料にかかるコスト、及び同じく31%を占める人件費の増加を経験した。人件費については、南アフリカ雇用労働省が2023年3月1日に新たな最低賃金を1時間当たり25.42ランド(1.38米ドル)と定めたことから、2022/23年度にはさらに上昇すると予想される。これは、2022年の23.19ランド(1.26米ドル)から10%の増加となる。これに対し、生産者らは新しい品種の植栽や接ぎ木を控えることにより、人件費を削減している。当事務所は、現地調査において伐根された生食用ブドウ園を見かけたが、すぐに改植されたかどうかは明らかでない。

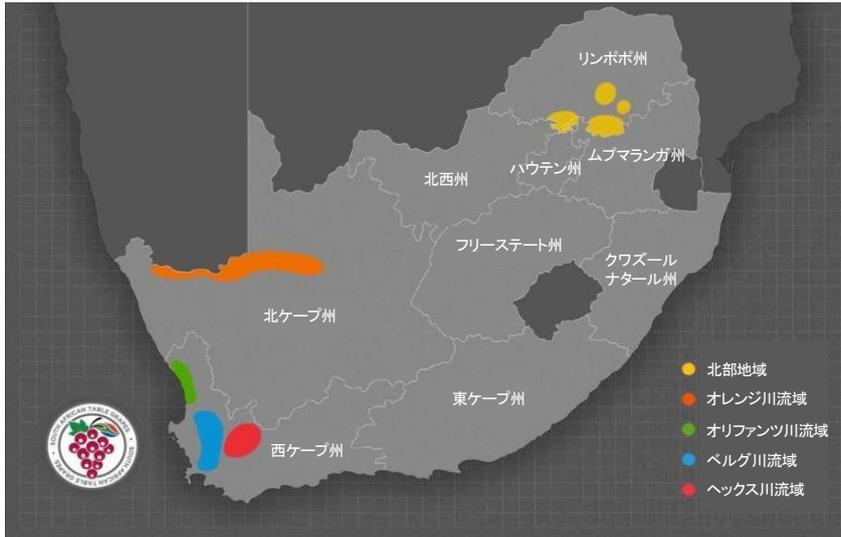
図9 南アフリカの生食用ブドウの栽培面積



出典: 南アフリカの生食用ブドウ産業(SATI)及び当事務所推計

2021/22年度の栽培面積は、2020/21年度の2万564ヘクタールから1%減の2万379ヘクタールとなった。特に面積が減少したブドウ産地は、北部地域(-8%)、ベルグ川流域(-2%)等であり、ヘックス川流域の栽培面積は変わらず、オレンジ川流域(+3%)とオリファンツ川流域(+1%)ではわずかに増加した。西ケープ州のヘックス川流域は、南アフリカの主要な生食用ブドウ産地であり、南アフリカの栽培面積の31%を占めている(図10参照)。その他の主要産地は、北ケープ州のオレンジ川流域(総面積の28%)、西ケープ州のベルグ川流域(23%)、北東部のリンポポ州(12%)等である。

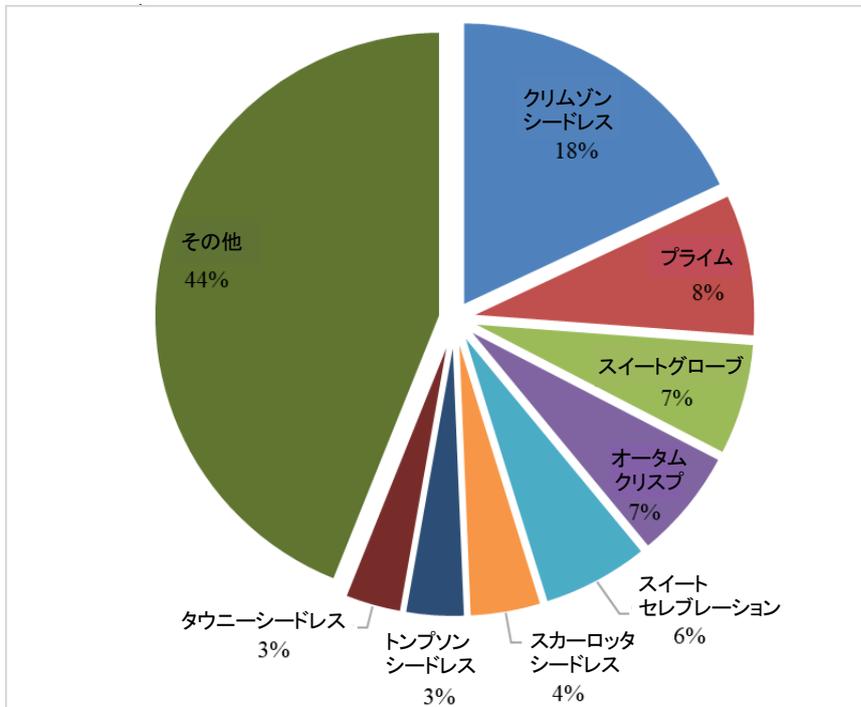
図10 南アフリカの生食用ブドウ産地



出典: SATI

2021/22年度におけるブドウの樹齢は、3～9年が主体(53%)で、次に10～15年(19%)、さらに16年以上(15%)が続いた。約2,740ヘクタール(13%)は、樹齢2年未満の若い園地であった。上位5品種の樹齢別の割合を見ると、スイートグローブ(43%)、オータムクリスピー(38%)、スイートセレブレーション(32%)では、樹齢2年未満の新しいブドウの木の栽培面積が多かった。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年間で大きく変化した。消費者は種なしブドウを好み、その結果、種なし生食用ブドウ品種の栽培が増加する一方で、種のある品種は減少している。現在のブドウ園のうち、種のある生食用ブドウは8%未満である。

図11 生食用ブドウの品種別シェア



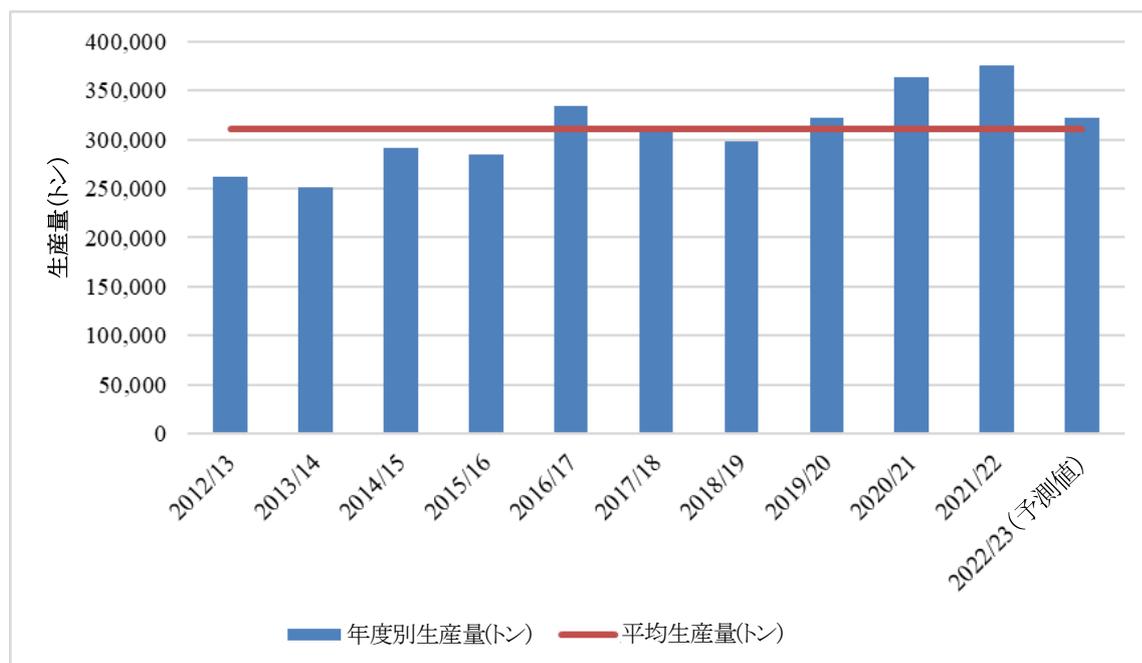
出典: 2022 SATI Tree Census

生産

南アフリカの生食用ブドウ生産量は、2021/22年度に過去最高の37万6,015トン記録したが、当事務所2022/23年度の生産量を34万トンに下方修正する(図12参照)。これは、2023年1月の熱波の影響を受けた北ケープ州オレンジ川流域を初めとする減収によるものである。さらに、この予測は、栽培面積のわずかな減少と、収量が通常に戻ることも踏まえている。

2021/22年度の生食用ブドウの栽培面積は横ばいであったが、多収性の新しい品種の園地が成園化したことと、シーズン中の良好な気象条件によって過去最高の生産量が達成された。

図12 南アフリカの生食用ブドウ生産量



出典：米国農務省、SATI、当事務所推計

輸出

当事務所は、生産量の減少を踏まえ、2022/23年度の南アフリカの生食用ブドウ輸出量を30万トンに下方修正する。2021/22年度には、史上最高の生産量に支えられ、生食用ブドウの輸出量は4%増加し、記録的に多い33万5,750トンに達した(表8参照)。しかし、ケープタウン港の非効率性、輸送の遅れ、及び高いリーファーコンテナ運賃が業界に大きな圧力となっている。南アフリカの生食用ブドウ輸出量の約95%はケープタウン港を経由しており、残りはダーバン港を経由している。生食用ブドウは非常に傷みやすく、港湾を円滑に通過することが重要だが、南アフリカからの輸出は国内の港で繰り返し物流上の困難を経験している。2023年2月には、生食用ブドウの輸出の最盛期にケープタウン港が強風のために約240時間閉鎖され、この非常に傷みやすい果実の取り扱いが大幅に混乱した。

業界の代表組織である南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)によると、同国は2019/20年度に28万4,280トンの生食用ブドウを輸出したが、2020/21年度には国内生産の改善により、13%増となる32万1,770トン輸出した。

ヨーロッパは南アフリカの生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2021/22年度の生食用ブドウの総輸出量の約75%を占めた。個別の国ではオランダが南アフリカの生食用ブドウの最大の輸出市場であり、総輸出量の40%以上を占めた。南アフリカは、他の南半球の競合国に比べてヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との特恵貿易協定の恩恵も受けている。アジア、中東、アフリカへの輸出も強力な成長の可能性があり、南アフリカの生食用ブドウ産業が注目している。米国への輸出量は過去5年間で大幅に増加したが、い

まだ5千トン未満であり、生食用ブドウの総輸出量の2%未満に過ぎない。米国に輸出される主な品種は、オータムクリスピー、レッドシードレス、アドラシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	2022/23*(トン)
欧州連合	173,538	179,554	153,926
英国	70,992	75,027	57,591
カナダ	17,885	20,152	17,978
中東	14,463	17,945	20,632
東南アジア	15,517	15,839	15,055
極東	12,333	11,290	8,006
アフリカ	4,748	5,957	4,405
米国	4,867	3,719	2,745
ロシア	4,836	3,452	3,726
その他	2,590	2,813	1,396
合計	321,769	335,747	285,460

出典: SATI

* 2023年第15週(4月前半)までの輸出

表11 生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～2021年9月		2021年10月～2022年9月		2022年10月～2023年9月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	20,564	20,564	20,349	20,379	20,300	20,270
収穫面積	18,000	18,000	18,500	18,500	18,500	18,250
商業的生産量	364,063	364,063	380,000	376,015	350,000	340,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	364,063	364,063	380,000	376,015	350,000	340,000
輸入量	9,100	9,053	9,700	9,712	10,000	8,000
総供給量	373,163	373,116	389,700	385,727	360,000	348,000
生鮮国内消費量	51,393	51,347	53,900	49,977	50,000	48,000
輸出量	321,770	321,769	335,800	335,750	310,000	300,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	373,163	373,116	389,700	385,727	360,000	348,000

単位: ヘクタール、トン